

建団連 新入社員研修セミナー開く

大阪府建団連（北浦年一会長）の「新人社員研修セミナー」が、左官基礎コースと施工管理基礎コースとして、それぞれ四日から六日までの三日間にわたり開催された。このセミナーは、建設業振興基金からの受託事業として、昨年から建団連傘下の組員を対象に実施しているもので、左官コースは尼崎市のポリテクセンター兵庫、施工管理コースは、大阪市中央区の建団連会館で行われた。

「左官基礎」と「施工管理基礎」

実技や現場見学など

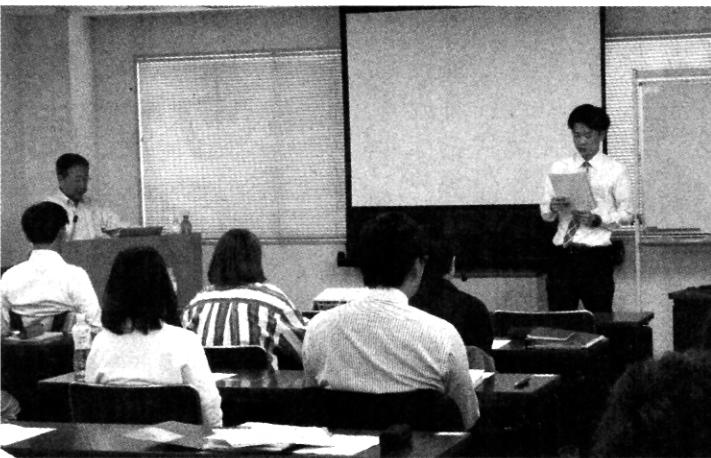
則理事長が挨拶。邑智副会長は、「皆さん、所屬先は違うが同じ道を目指した者として、一人ではない」ということを忘れずに、講習終了後も同じ仕事で、それぞれが頑張っているということを忘れないに、しつかりと学んでほしい」と受講者を激励した。

このうち左官基礎工1壁塗りの最終テストが実施され、最後に修了証がスには、大阪府左官工業組合の組員から三人が受講。開講式にあたり建団連を代表して副会長である左官組合の邑智保が受講。開講式にあたり、今回の左官基礎コース実施にあたっては、左官組合と独立行政法人高

たった。一方、施工管理基礎コースでは、今回が初めての開催。建団連各組合で今年度に入社した技能職を除いた社員三〇人が受講した。講習では、元近畿職業能力開発大学校教授の杉本誠一氏が講師見学とサブコン社員の役割と業務について学んだ。現場見学では、朝礼や報告、指さし呼称等を模擬体験したほか、関連法規や必要となる資格、KYK活動の実践など安全衛生活動についての講義が実施された。



左官基礎コース



施工管理基礎コース

は、コンソーシアムの事務局である建設業振興基金から、地域のネットワークに対しても業務を委託するもの。

たった。一方、施工管理基礎コースでは、今回が初めての開催。建団連各組合で今年度に入社した技能職を除いた社員三〇人が受講した。講習では、元近畿職業能力開発大学校教授の杉本誠一氏が講師となり、社会人としての心構えから建築現場の基本知識等について実践と講義が行われた。このうち現場の基本知識では、ゼネコン現場の見学とサブコン社員の役割と業務について学んだ。現場見学では、朝礼や報告、指さし呼称等を模擬体験したほか、関連法規や必要となる資格、KYK活動の実践など安全衛生活動についての講義が実施された。

建団連ではこれまで、入職希望者をはじめ、一・二級の技能資格取得希望者を対象に、技能者会と連携した実践訓練を行っていたが、昨年に振

興基金の「建設産業担い手確保・育成コンソーシアム事業地連携ネットワーク構築支援事業」を受託したことから、新人社員研修として実施しているもの。

専門工事業における新入社員教育については、は、現場に配属してOJT教育を実施する場合が殆どだが、実際の現場では時間的な余裕がなく、体系的な指導を行うことが困難であることから、技能を身に付ける前に離職する者も多かつた。このため同事業では、組合企業の新入社員を一堂に集めて教育訓練を行うこととしたも